

令和3年度第4回伊勢市総合計画審議会 議事要録

◆日時 令和3年11月25日(木) 19:00~20:30

◆会場 いせ市民活動センター北館(シティプラザ)2階多目的ホール

◆出席委員

杉山 謙三委員、藤本 美保子委員、山田 純也委員、竜田 和代委員、宮崎 吉博委員、永井 正高委員、森口 留美子委員、酒徳 雅明委員、村田 典子委員、村田 久実委員、西村 幸泰委員、伊藤 良栄委員、齋藤 平委員、森田 道子委員

◆欠席委員

水谷 賢委員

◆出席職員

情報戦略局【情報戦略局長、情報戦略局次長、企画調整課課長補佐】
環境生活部【環境生活部長、環境生活部参事】、教育委員会事務局【事務部長】
健康福祉部【健康福祉部長】、危機管理部【危機管理部長】
産業観光部【産業観光部長】、都市整備部【都市整備部長】
総務部【総務部長】、上下水道部【上下水道部長】、消防本部【消防長】

◆議事概要

- 1 第3次伊勢市総合計画中期基本計画案について
 - ・第3次伊勢市総合計画中期基本計画案について、事務局より説明

《意見・質問など》

※以下の要録は、事務局により要旨を編集したものです。微妙なニュアンス等が表現されておられませんので、ご了承ください。

(1) 分野別計画

●分野1 自治・人権・文化

【施策1 地域コミュニティ】

- ・(1) 体系図の主要課題「地域活動のステップアップの促進」は少し具体性に欠けないか。どういったことをイメージしているのか。また、「地域活動」の定義は。
 - 「地域活動」は地域の課題を解決していくための活動と考えている。「ステップアップ」とは、ICT導入など新しい地域活動への転換を図るとともに、住民個人においても、地域活動への参加、参画、役員等、段階的に成長いただくという意味合いを現している。

【施策3 人権尊重・男女共同参画】

- ・男女共同参画の意識づけは幼少期からの取組が大切である。そういった表現や目標指標を検討しては。

→包括的な表現で記載はしているが、改めて検討したい。

●分野2 教育 意見なし

●分野3 環境

【分野全体】

- ・前回審議会での意見等しっかり反映しており、良いと思います。

【施策1 循環型社会】

- ・目標指標「市民1人1日当たりの燃えるごみ排出量」について、目標値の減少幅が小さく、ほとんど変化がない。また、令和6年度に増加の目標値が設定されておりわかりづらい。

→現在のごみ処理基本計画に基づくものであるが、次回改定時に検討していきたい。

→数値の増減については、記載誤りの可能性があり、確認する。

●分野4 医療・健康・福祉

【施策1 医療・健康】

【施策4 子育て支援】

- ・目標指標「サポートプラン実施率」「子育てしやすいまちであると感じている市民の割合」は、現状値と目標値がほとんど変わらない。大事な事業・指標ではあるが、成果が表れる指標は検討できないか。

【施策3 障がい福祉】

- ・指標「共同生活援助（グループホーム）利用者数」も大事であるが、親亡き後等、ニーズと施策の方向性にずれがあると感じる。グループホームを含め施設・事業所が少ないのではないか。「伊勢に施設がないから他市町へ」と聞くとつらい。事業所を増やすための支援についての指標や記載があるとよい。

→事業所への支援は行っているが、下位計画における指標は利用者数に関するもののみとなっている。検討したい。

●分野5 防災・防犯・消防

【施策3 消防・救急】

- ・目標指標「建物火災で消防隊が現場到着から放水を開始するまで所要時間」の目標値が3分以内というのは、もう短縮が難しいほど努力頂いているということかと思う。
→現状2.4であるが、3.0分以内は維持するという考えで設定したもの。指標については検討する。
- ・目標指標「救急現場で心肺機能停止症例に対する市民による応急手当実施率」は、現状値等が50となっているが、それほど高いとは思わなかった。
→応急手当に関する講習受講者数等を増やしてきたが、実地で活用いただけてこそという考えから設定したもの。50はAEDだけでなく、状況に応じた応急手当の実施に係るもの。指標については検討する。
- ・様々な講習などによりバイスタンダー等の人材育成をされているはず。受講者数など「人」に関する目標指標の設定があるとよい。
→検討したい。

【施策4 交通安全】

- ・「ICT技術」は、「技術」が重複となるので、「ICT」と表記を。

●分野6 産業・経済

【施策1 農林水産業】

- ・目標指標も農・林・水のそれぞれに設定され、良いと思う。

【施策3 観光】

- ・主要課題「新たな交流を生み出すための地域資源の発掘・磨き上げ」が設定されたが、地域資源もさまざまであるため「魅力ある地域資源の」とした方がよいかと思う。
- ・現在進行中の観光振興基本計画策定の審議を踏まえ、主要課題として「新たな関係人口の取組」を追加できないか。

【施策4 就労・雇用】

- ・目標指標「伊勢公共職業安定所管内の有効求人倍率」について、前回、若者の就職に関するもの等の意見があったが対応は難しいのか。
→把握している数値に乏しく、目標指標としての設定は困難と判断した。

●分野7 都市基盤

【施策1 土地利用】

- ・施策の単位を変更し、市街地整備を土地利用として整理し、立地適正化計画等との関係も含めきれいに整理された。

【施策2 道路・公園】

- ・公園に関する目標指標もあるとよい。
→検討したい。

●分野8 市役所運営

【施策1 行財政運営】

- ・目標指標「伊勢市 SNS への登録者数」は、高齢者等の SNS を使えない方を対象から除いた指標と感ずる。元の指標のままで、目標値だけ上目補正の方が適切なのでは。
→広報紙に加え、若年層などへの新しい情報伝達手段を確保していく狙いから設定したもの。指標の設定については再度検討する。

(2) 分野横断課題

●課題の設定について

- ・意見無し

①人口減少・少子化への対応

- ・誤りではないが、「コンパクトなまちづくりや広域行政の強化」という表現は、「コンパクト」と「広域」が逆の意味のため、とまどう。良い表現があれば精査いただきたい。
- ・「②超高齢社会への対応」においては「高齢者が住み慣れた地域で」という方向性があるが、「コンパクトなまちづくり」の定義をこたえられるようにしておく必要がある。

②超高齢社会への対応

- ・意見無し

③新しい地域のつながりづくり

- ・高齢者も主役であるということ、また、高齢者と若者の世代間交流により活動等を継承していくという視点が大切。

④ダイバーシティ社会の実現

- ・「当事者の想い・声を聴きながら」など、当事者の視点をもって進める必要がある。

⑤デジタル技術の活用

- ・分野別計画の第2章には記載されているが、ここでも、GIGA スクールの推進等、教育分野についての記載もあるとよい。
→修正します。
- ・行政におけるデジタル人材の育成が必要。事業者に委託するとしても、事業者と適切な協議・調整等を行うための能力が必要。
- ・観光誘客への活用も位置付けてほしい。仮想空間等、様々な展開が期待される。

⑥脱炭素社会の実現

- ・「転換を進めます」という記載もあるが、特に中小の事業者にとっては負担も大きくなる。
→行政の押し付けにならないよう検討する。
→国や県の取組とも連携するという意図と理解していた。

⑦「伊勢らしさ」の継承・魅力発信

- ・「郷土愛」を育むための教育についても重要。

○SDG s の推進

- ・意見無し

○新型コロナウイルス感染症で変わる社会、新しい価値観への対応

- ・意見無し

(3) モニタリング指標

- ・転入、転出、人口構造に関するもの
- ・住みやすさに関するもの
- ・高校卒業後の市内就職や、大学卒業後のUターンなどに関するもの
- ・何を把握するためのものか。大きいものから小さいものまでさまざま。
→市民や関係者等と現状を共有するために活用する。詳細を表すというよりは大局的なもの基礎的なものを定めていきたい。
- ・どう活用するのか
→施策を立案する上での基礎となり、また、市民や関係者等と現状を共有するために活用する。毎年公表することを想定している。

- ・イメージの「12. 自分のまちとしての愛着、魅力を感じていると思う割合」は、市民アンケートによるものか。
→このまま設定する場合、そのように考えている。
- ・食の安全等、若者の農業への意欲も高まっていると感じている。農業、生産者数等の指標があれば。
- ・年少人口と児童数など、別に設定する意図が分かりづらいものがある。
→イメージとして様々なものを提示したもの。精査する。
- ・分野横断課題には指標がないため、それに関するものがあればと思う。
- ・民間事業者が発表している「住みたいまちランキング」など
- ・産業・経済に関するものがもう少しあるとよい。